



神事芸能である神楽には様々な属性のものがあるが、島根県浜田の「石見神楽」は、農耕の豊穡神である大元神に奉納する大元神楽が源とされ、現在も氏神様の秋祭で奉納される。一方、石見神楽は「見せる」魅力も大きく、地域のエンターテインメントとして絶大な支持を博し、毎週末、また不定期上演も多く、県外・海外公演の招聘も多い。

東アジアの神事芸能の状況を踏まえ、当地の神事芸能・民俗芸能の文脈に立ちながら、高いエンターテインメント性を獲得した石見神楽について、神楽社中の中でも人気を博す西村神楽社中の代表日高均氏に、「大蛇」等を例に身体の使い方や音の動きなども含め、ご紹介頂く。

石見神楽

神と人のエンターテインメント

日高 均

(西村神楽社中・代表)

代表を務める西村神楽社中は、浜田市西部に位置する西村町にあり、浜田八調子神楽の代表的社中。1976年22歳で神楽社中を設立。日脚社中の肥後勝氏、一ノ谷徳市氏に指導を受け、伝統的な石見神楽を習得。1986年、結成10周年記念神楽に1700名の観客を集め、重要な社中の1つと認められる。同年、後継者養成と青少年健全育成を目的として子供神楽社中を設立。

細井 尚子

(アジア地域研究所所員・異文化コミュニケーション学部教授)



申込・参加費 不要

2019年7月12日(金) 17:30-19:00

立教大学 池袋キャンパス 太刀川カンファレンスルーム

問合せ 立教大学アジア地域研究所 Tel/Fax:03-3985-2581 E-mail:ajiken@rikkyo.ac.jp

主催：立教大学アジア地域研究所

共催：立教SFR共同プロジェクト研究「東アジア文化圏」研究基盤の構築—娯楽市場における「大衆」「演劇」「大衆演劇」から—